



# LEXUS TEAM LeMans ENEOS

## 2015年 SUPER GTシリーズ

### 第7戦 レースレポート



開催日	予選：2015年 10月 31日(土) 決勝：2015年 11月 1日(日)
サーキット	オートポリス (1周4.674km)
決勝レース 周回数	65周 (303.81km)

ドライバー	大嶋 和也 / 国本 雄資
順位	予選：9位 / 決勝：8位
シリーズ ランキング	大嶋 和也：10位 / 30ポイント (今回3) 国本 雄資：10位 / 30ポイント (今回3) チーム：9位 / 44ポイント (今回6)

#### ■難しいコンディションの中、粘りのレースで第7戦APで8位に入賞

前戦菅生で表彰台目の4位を得たENEOS SUSTINA RC F。シリーズラスト2戦となり、ウエイトハンデが半減となったオートポリスでは予選9番手から決勝をスタート。途中から雨が降る難コンディションとなる中65周を走り切り、連続入賞となる8位入賞を飾った。

#### 予選 (天気：晴れ / コース：ドライ)

気温8℃、路面温度13℃と肌寒いながらも爽やかな秋晴れとなった10月31日(土)。午前9時にスタートした公式練習では、序盤大嶋がステアリングを握って周回を重ね1分35秒314をマーク。セッション半ばを過ぎた午前10時03分からは国本がドライブ。ロングランを行った国本は、1分36~37秒台で周回を重ねる。ラスト10分間のGT500占有時間帯には、再び大嶋が乗り込んで予選シミュレーションを行ったが、1分34秒069で一時3番手にENEOS SUSTINA RC Fを押し上げるも、ガス欠症状が出てストップしてしまう。

しかし、大きなトラブルはなくその後のサーキットサファリを走行したENEOS SUSTINA RC Fは、午後1時50分から行われたGT500のQ1に大嶋のドライブで挑んだが、アタックラップに前のマシンがスローダウンしてしまい、仕切り直しとなった計測3周目に1分34秒105を刻んだものの、僅か100分の6秒という僅差で9番手に。惜しくもQ2進出権を逃したENEOS SUSTINA RC Fは、決勝を9番手からスタートすることとなった。

#### 決勝 (天気：曇りのち雨 / コース：ドライ&ウェット)

どんよりとした曇り空となった決勝日。午前9時からのフリー走行では前半は大嶋がドライブし1分37秒304を刻んで4番手につけると、後半は国本に代わってチェッカーまで周回したENEOS SUSTINA RC Fは、このフリー走行で最終的に6番手とまずまずの手応えを得て、午後の決勝に臨んだ。

午後2時07分にスタートした65周の決勝レース。スタートドライバーを務める大嶋は9番グリッドからスタートし、オープニングラップにひとつポジションを上げ8番手に。さらなるポジションアップを狙った大嶋だったが、ペースが悪いながらもストレートの速い64号車に抑えられてしまい、数台による密集状態の攻防の中で、一時は11番手まで後退してしまう。しかし、そこからじりじりとポジションを挽回した大嶋は、時折雨が降るトリッキーなコンディションとなるも、5番手まで挽回してピットイン、国本にバトンを託す。

ステアリングを引き継いだ国本は、さらに断続的に雨が強まる難しいコンディションながら、ベストタイムを更新するなど健闘。ENEOS SUSTINA RC Fは終盤9番手を走行も、ファイナルラップに1台がコースアウトしたこともあり、粘りのレースで8位でのチェッカーとなった。

#### 大嶋和也のコメント

スタートしてひとつポジションを上げられたのですが、その後ストレートの速いNSXに抑えられてしまい、逆に背後のマシンに詰め寄られて接近戦の中で厳しい展開になりました。それでもペース自体は悪くなかったと思いますし、予選での不運がなく、もう少し前のグリッドからスタートできていれば、もっと違った展開になっていたように思います。最終戦のもてぎでは合同テストでトップタイムをマークしていますし、一昨年のように良いレースをして優勝を飾ってシーズンを締めくくりたいですね。

#### 国本雄資のコメント

ピットアウトしてから後ろに46号車も来ていましたので、序盤は頑張ってプッシュしてペースも良かったのですが、その時点で結構タイヤを消耗させてしまったように思います。そのためステントの後半は徐々にタイヤが厳しい状況になって、9番手にポジションを下げてしまいましたが、最終ラップにポジションをひとつ上げられたのは良かったと思います。もてぎは得意なコースだと思いますし、最後のレースになりますから、自分の力を出し切っているレースをしたいと思っています。

#### 土沼監督のコメント

土曜の予選でスローダウンしたマシンに引っ掛かってしまったことで、結果的にスタートポジションが悪くなり、ストレートの速いマシンに苦戦させられる結果となりました。残念ながら運を味方にできなかったという形ですが、残る最終戦のもてぎでは、レースウィークの流れをしっかりと掴んで、チーム全体の力を出し切って優勝を目指すしかないと思います。今季最後のレースですから、良い形でシーズンを終えられるよう頑張ります。

